高取小だより　　令和７年６月13日

三本桜

第11号

ふかく考える子　　あたたかみのある子　　がんばりのきく子
６月の目標：規則正しい生活をしよう

子ども目線で・・・

大人は、だれも、はじめは子どもだった。しかし、そのことを忘れずにいる大人は、いくらもいない。

これは、フランスの小説家サンテグジュペリが書いた「星の王子さま」の冒頭の一文です。大人になるにつれて、子どもの頃に感じていたいろいろな感情や視点を忘れてしまいがちだと言っています。

このように、私たちが子どもだったことを忘れて、子どもたちが本来もっているものを無視して接すると、子どもたちはどうなっていくでしょうか。本来、子どもたちがもっているものを全く発揮できていない、それどころか失いかけている姿があるかもしれません。

そうだとすると、それはとても罪深いことです。大人が他者との望ましいかかわり方を見せていなかったり、子どもが失敗をしないようにと先回りして手をかけ過ぎたり、やりかけたことをやめたいと言えば、簡単に子どもの思いだからとすぐにやめさせてしまったりなど、それでよいのでしょうか。改めて、子どもたちをどのように育てているか、また、子どもたちがどのように育っているか、振り返ってみました。

私たちは、子どもの頃にもっていたものをなくしたわけではありません。ただ忘れかけているだけなのです。そうさせているのは、ものごとを損か得かで判断をしたり、先入観や思い込みで決めつけてしまったり、子どもの頃にはなかった感覚や思考などを優先していたりするからだと考えます。

「大人は、だれも、はじめは子どもだった」ことを思い出し、「自分が子どもだったらこのようにしたいだろう」と、子ども目線でとらえながら子どもたちがもっているよさを伸ばしたり、必要な力を育んだりしていきたいものです。

うっとおしい梅雨の時期となり、過ごしにくい日が続きますが、笑顔あふれる学校になるよう努めます。

いじめの対応について

いじめについては、「児童に対して、当該児童が在籍する学校に在籍している等当該児童と一定の人的関係のある他の児童が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む）であって、当該行為の対象となった児童が心身の苦痛を感じているもの」と定義しています。起こった場所は学校の内外を問いません。そして、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童の立場に立って行うものとする」と規定しています（詳細はＨＰをご覧ください）。

いじめの原因はさまざまですが、小学生ともなれば遅い早いはありますが、「自我」が芽生え、他者との違いを自覚し始めます。その違いから他者を批判し傷つける言動をしてしまうことや学校生活を含めて日常生活のさまざまな不平・不満が原因との調査もあります。どの子どもも「いじめはよくない」とは頭では分かっているはずです。

学校では「人権週間」「人権教室」「道徳」などを通じて、いじめの未然防止に取り組んでいますが、あわせて授業や行事等で「学び合う活動」を取り入れ、考えを伝え合い、相互理解を図る、心からつながる、信頼し合う関係づくりを推進していきます。

学校には教員以外にもスクールカウンセラーという職員がいます。私たち教職員は一丸となって、引き続き子どもたちに一人一人に寄り添い、見守っていきます。ただ、至らないこともあろうかと思います。お子様の様子について、ご心配な点がありましたら遠慮なさらず学校までご連絡ください。お子様にとってどのような対応が最善なのか、一緒に考えていきたいと思います。

水害を想定した避難訓練（垂直避難訓練）

11日（水）、「台風や大雨のため近くの稗田川が氾濫し、高取小学校に水害が迫っている」ことを想定し、その際の基本行動（垂直避難）の訓練を行いました。子どもたちは真剣かつ落ち着いて避難できました。避難時の４つの約束「お・は・し・も（押さない・走らない・しゃべらない・戻らない）」をしっかりと守ることができました。この訓練には、たかとりこども園の年長の園児も参加しました。学校では、今後も自分の命を守る行動が取れるように、継続した指導を行っていきます。

【南校舎３階に避難する子どもたち】

【たかとりこども園の子どもたち（図書室）】